



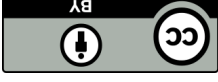
Storybooks Canada

storybookscanada.ca

カノバに毛カヅない畝

Written by: Basilio Gimo, David Ker
Illustrated by: Carol Liddiment
Translated by: Sayuri Hayashi

This story originates from the African Storybook (africanstorybook.org) and is brought to you by Storybooks Canada in an effort to provide children's stories in Canada's many languages.



This work is licensed under a Creative Commons [Attribution 3.0 International License](https://creativecommons.org/licenses/by/3.0).
<https://creativecommons.org/licenses/by/3.0>

カノバに毛カヅない畝

✎ Basilio Gimo, David Ker

👤 Carol Liddiment

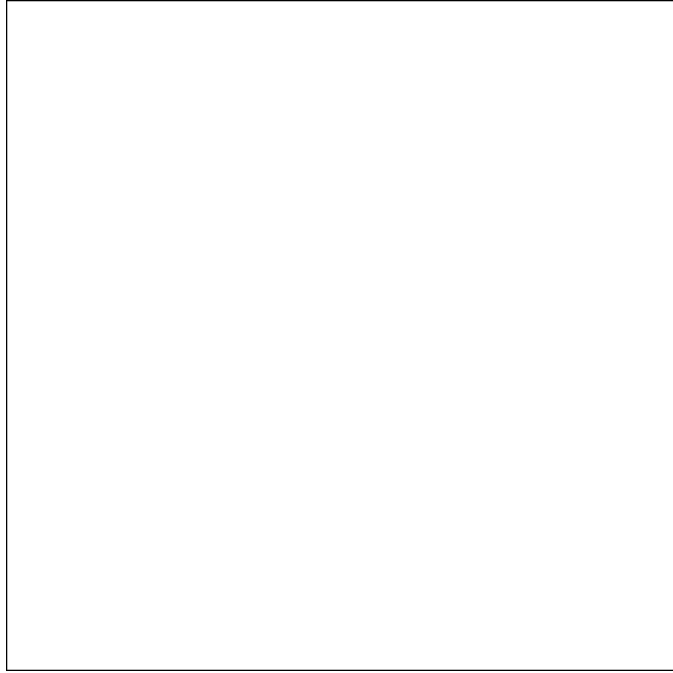
📄 Sayuri Hayashi

🗣️ Japanese

📖 Level 2

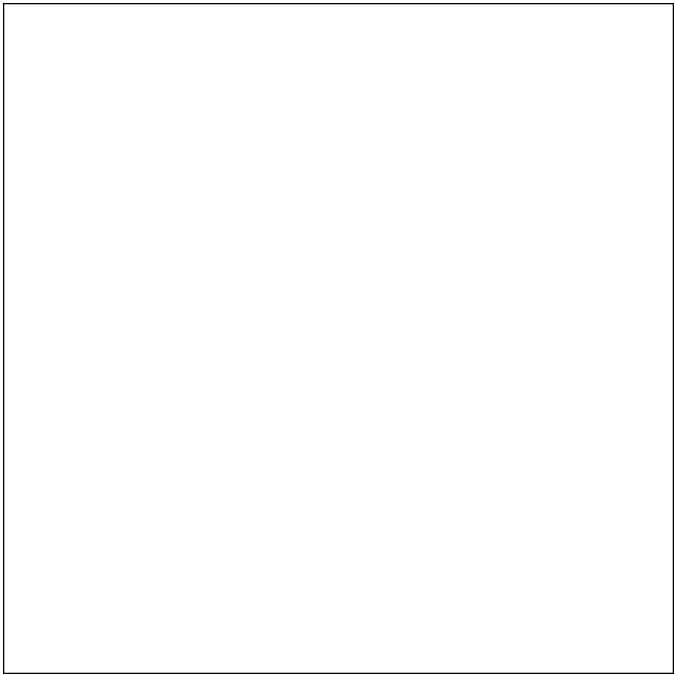
(imageless edition)

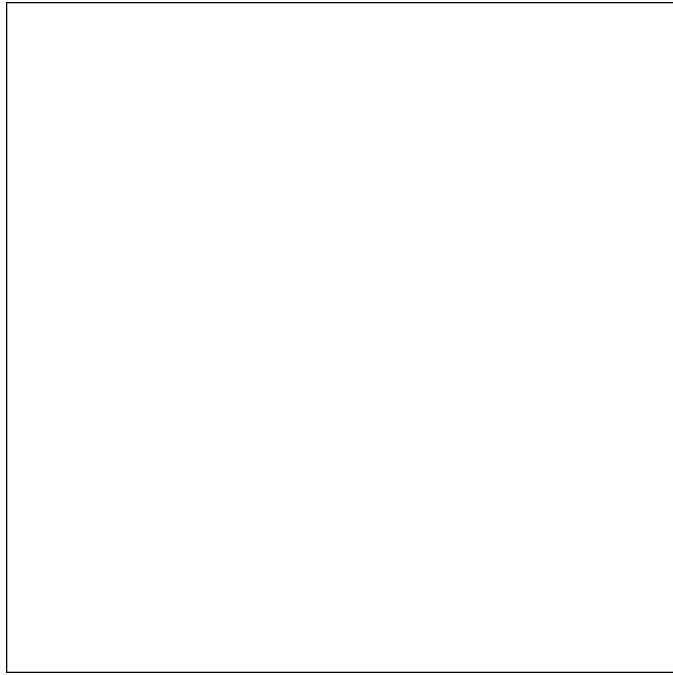




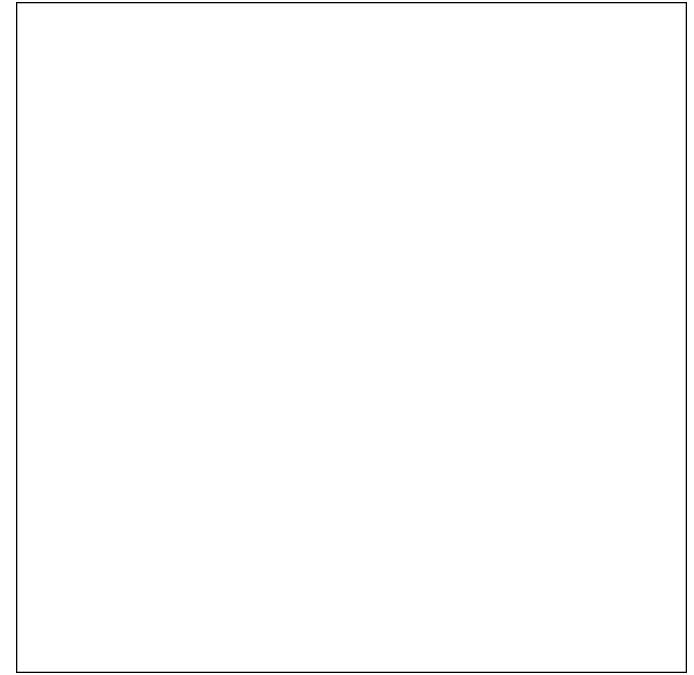
ある日、うさぎが川のほとりを歩いて
いました。

カバもそこで散歩をしながら、すてきな緑の草を食べていました。



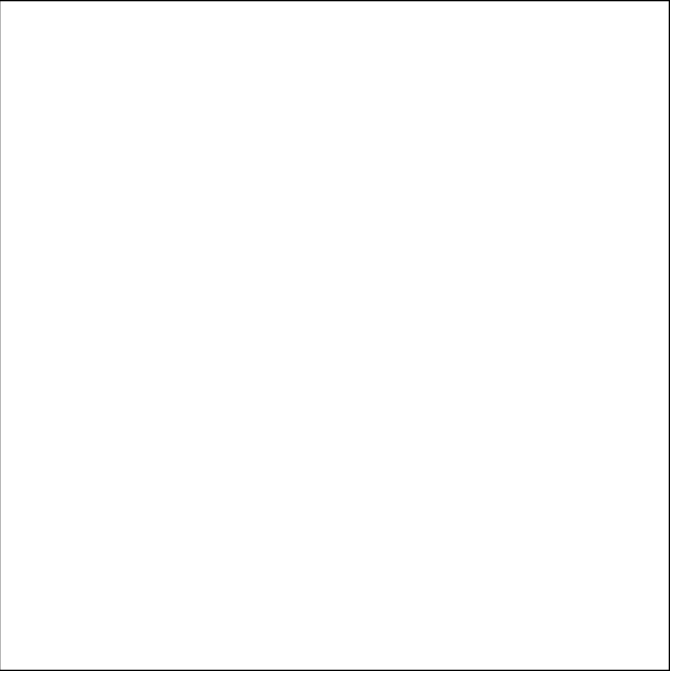


カバは、うさぎがそこにいるとは知らず、あやまってうさぎの足を踏んでしまいました。うさぎはカバを見つめてそして叫びました。「おいカバ、わたしの足を踏んでいるのが分からないのか？」

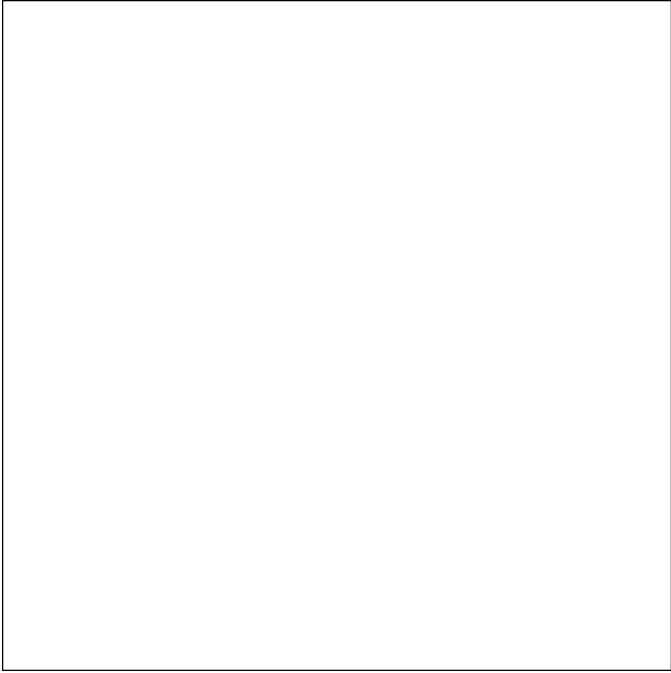


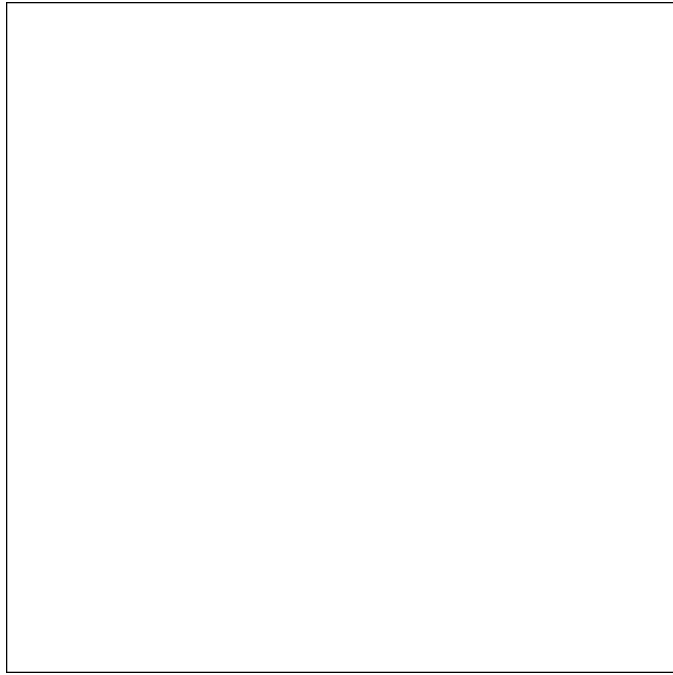
うさぎは、カバの毛が燃やされて、嬉しくなりました。そして、カバはこの日を機に火を恐れて、水から離れたところには二度と行かなくなりました。

カバは、うさぎに謝りました。「ごめんよ。見えなかったんだ。どうか許してよ」けれどもうさぎは聞き入れず、カバに向かって叫びました。「わざとやったろ！今に分かるさ。ただじゃすまないぞ！」

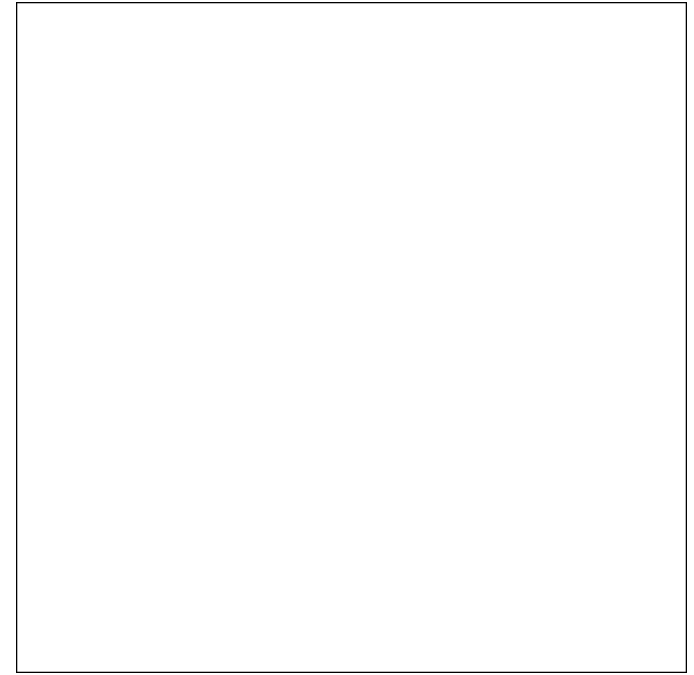


カバは泣き出し、水を求めて走りまわった。カバの毛は全部火によって燃やされてなくなりました。カバは泣き続けてきました。「わたしの毛が火で燃えた！わたしの毛はすっかりなくなっちゃった。わたしの美しい毛が！」





うさぎは火を探しに行き、こう言いました。「行け！草を食べるために水から出てきた時、カバを燃やしてしまえ。やつは、わたしの足を踏んだんだ！」火は「お安い御用です。友達のうさぎさん。お望み通りにやりますよ」と答えました。



その後、カバが川から遠く離れた場所で、草を食べていると「ビュン！」火がつき炎が上がりました。炎はカバの毛を燃やし始めました。